

令和6年度事業計画

公益財団法人 滋賀県水産振興協会

1 基本方針

琵琶湖漁業全体の漁獲量は、当協会が放流事業を実施しているニゴロブナなど多くの魚種で厳しい状況が続いている。特にアユについては、令和5年秋に約15億粒で平年の20%（水産試験場調査結果）の天然産卵にとどまり、追加放流が行われた人工河川の稼働とあわせて令和6年度は平年比39%の資源加入と推定され、春以降の漁期に向けて、アユ資源の動向に注視が必要である。一方、ホンモロコの資源量は継続して増加傾向となっており、漁獲量の増加が期待される場所である。

琵琶湖漁業の振興を図っていくためには、琵琶湖の水産資源を有効かつ持続的に利用するとともに、琵琶湖の豊かな水産資源を回復させ、特に漁業基盤である主要水産資源を増殖することが重要である。

令和6年度においても、第Ⅲ次中期経営計画（改訂版）および第8次滋賀県栽培漁業基本計画に基づき種苗生産放流による資源の維持、増殖事業を実施するとともに、産卵繁殖場の保護などを行い、「つくり育てる漁業」を推進する。

2 事業計画

(1) ニゴロブナ増殖事業

本県漁業の重要魚種であるニゴロブナの資源増殖のため、琵琶湖栽培漁業センターの飼育池、湖上筏網イケス施設を利用し、種苗の生産放流を行う。

琵琶湖周辺の水田約500反に5月中旬から6月上旬に卵、ふ化仔魚を放流し、約1ヵ月後の中干しの際に全長20～30ミリサイズ種苗800万尾を流下させる。また、赤野井湾の生産機能の回復のため、赤野井湾周辺の水田でふ化仔魚200万尾を放養し、約1ヵ月後の中干し時に稚魚を赤野井湾に流下させる。さらに、体重約20グラムの大型稚魚97万5千尾を10月から12月に琵琶湖に放流する。併せて、放流効果を把握するため、標識魚の追跡調査を実施する。その他に、水産試験場の試験研究のために3種類の標識を付けた20ミリサイズ種苗を指定場所に放流する。

(2) ホンモロコ増殖事業

ホンモロコの資源保全を図るために琵琶湖沿岸のヨシ帯にふ化仔魚100万尾を5月に放流する。

(3) 人工河川管理運用事業

アユ資源の安定維持、培養を図るため、8月下旬から9月上旬にかけて養成親魚8トンを安曇川人工河川に、また、9月上旬に特別採捕により捕獲した天然親魚4トンを姉川人工河川や近隣の常水河川に放流し、効果的に産卵させ、9月中旬から10月にかけてふ化仔魚を琵琶湖に流下させる。

(4) 湖づくり活動支援事業

水産多面的機能発揮対策事業を実施する活動組織が行ったワタカおよびゲンゴロウブナの標識種苗放流の効果把握調査を行う。また、民間団体が実施するゲンゴロウブナの放流種苗生産用にふ化仔魚10万尾を提供する。

(5) 産卵繁殖場保全事業

県が琵琶湖内に設置した増殖場施設（21ヵ所）と南湖の砂地造成漁場（1ヵ所）の定期的な点検管理や雑木の伐採、支障物の撤去等により、機能維持および湖上事故防止に努める。また、湖辺の産卵繁殖場や魚のゆりかご水田水域において親魚来遊や産卵の状況の把握調査を行う。さらに簡易堰上げ水路等におけるニゴロブナ

の採卵およびその一部を水田へ収容して稚魚の育成試験を行う。

(6) 水産加工業振興対策事業

水産加工業者の経営の安定化と水産加工業の発展に資するため、滋賀県水産加工業協同組合に資金の貸付けを行う。

(7) 情報提供事業

ホームページや「協会ニュース」の発行により、県民や漁業者に事業活動や経営内容についての情報提供を行う。

収 支 予 算 書

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	48	48	—	
特定資産運用益	2,831	2,779	52	
受取補助金等	76,776	72,384	4,392	
受取負担金	3,000	3,000	—	
寄付金収益	1,300	1,300	—	
受取寄付金	29,397	23,618	5,779	
雑収	1,681	2,981	△ 1,300	
経常収益計	115,033	106,110	8,923	
(2) 経常費用				
事業費	123,947	117,025	6,922	
管理費	3,392	3,373	19	
経常費用計	127,339	120,398	6,941	
(うち人件費)	42,870	40,491	2,379	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 12,306	△ 14,288	1,982	
評価損益等計	—	—	—	
当期経常増減額	△ 12,306	△ 14,288	1,982	
当期一般正味財産増減額	△ 12,306	△ 14,288	1,982	
一般正味財産期首残高	74,892	84,778	△ 9,886	
一般正味財産期末残高	62,586	70,490	△ 7,904	
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額	△ 29,397	△ 23,618	△ 5,779	
当期指定正味財産増減額	△ 29,397	△ 23,618	△ 5,779	
指定正味財産期首残高	978,721	1,002,721	△ 24,000	
指定正味財産期末残高	949,324	979,103	△ 29,779	
III 正味財産期末残高	1,011,910	1,049,593	△ 37,683	

収 支 予 算 書 内 訳 表

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内 部 取 去 引 消 去	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	24	—	24	—	48
特定資産運用益	—	—	2,831	—	2,831
受取補助金等	76,776	—	—	—	76,776
受取負担金	3,000	—	—	—	3,000
寄付金収益	1,300	—	—	—	1,300
受取寄付金	29,397	—	—	—	29,397
雑収益	1,144	—	537	—	1,681
経常収益計	111,641	—	3,392	—	115,033
(2) 経常費用					
事業費	123,947	—	—	—	123,947
管理費	—	—	3,392	—	3,392
経常費用計	123,947	—	3,392	—	127,339
(うち人件費)	40,801	—	2,069	—	42,870
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 12,306	—	—	—	△ 12,306
評価損益等計	—	—	—	—	—
当期経常増減額	△ 12,306	—	—	—	△ 12,306
当期一般正味財産増減額	△ 12,306	—	—	—	△ 12,306
一般正味財産期首残高	74,892	—	—	—	74,892
一般正味財産期末残高	62,586	—	—	—	62,586
II 指定正味財産増減の部					
一般正味財産への振替額	△ 29,397	—	—	—	△ 29,397
当期指定正味財産増減額	△ 29,397	—	—	—	△ 29,397
指定正味財産期首残高	978,721	—	—	—	978,721
指定正味財産期末残高	949,324	—	—	—	949,324
III 正味財産期末残高	1,011,910	—	—	—	1,011,910

資金調達および設備投資の見込みについて

自 令和 6 年 4 月 1 日
至 令和 7 年 3 月 31 日

1 資金調達の見込みについて

なし

2 設備投資の見込みについて

(単位 千円)

設備投資の内容	支出または 収入の予定額	資金調達方法 または取得資金の用途
パソコン 1台	200	自己資金および県補助金より支出

令和5年度事業報告

公益財団法人 滋賀県水産振興協会

1 事業概要

琵琶湖漁業の振興を図るため、漁業基盤であるニゴロブナ、ホンモロコ、アユといった重要水産資源について、琵琶湖栽培漁業センター、琵琶湖周辺の水田および人工河川を活用して種苗生産、中間育成、放流を実施し、水産資源の増殖と漁業経営の安定に努めた。

ホンモロコの資源状況は増加傾向が継続しているが、ニゴロブナの資源状況は低位であり令和6年の春季漁期においては水域によって不漁との声もあがった。また、アユについても令和5年秋季の天然産卵量が約15億粒と平年の20%に留まったことから、人工河川への追加放流が行われ、令和5年12月の早期エリ漁はかろうじて需要を満たした。以降の漁獲は低調であり、資源動向に注意が必要な状況となっている。

2 事業実績

(1) ニゴロブナ増殖事業

ニゴロブナの栽培漁業による資源回復を図るため、琵琶湖周辺の水田で発眼卵やふ化仔魚を放養し、約1ヵ月後の中干し時に平均全長26.3ミリサイズに成長した稚魚911万尾を琵琶湖に流下させた。また、増殖効果の高い大型稚魚97万尾を琵琶湖に放流した。さらに、赤野井湾の在来魚復活事業のため、赤野井湾周辺の水田でふ化仔魚408万尾を放養し、約1ヵ月後の中干し時に稚魚116万尾を赤野井湾に流下させた。併せて、放流効果を把握するため標識魚の追跡調査を実施した結果、漁獲された魚に占める放流魚の割合（混獲率）は、春季南湖では63%であった。その他に、水産試験場の試験研究のため3種類の標識を付けた20ミリ種苗を近江八幡市牧地先に10万尾、守山市赤野井地先に8万6千尾、長浜市延勝寺地先に22万尾をそれぞれ放流した。

(2) ホンモロコ増殖事業

ホンモロコ資源を回復させるために南湖周辺の水田でふ化仔魚237万尾を放養し、約1ヵ月後の中干し時に稚魚71万尾を南湖に流下させた。

(3) 人工河川管理運用事業

アユ資源の安定維持、培養を図るため、8月下旬から9月中旬にかけて養成親魚11トン安曇川人工河川に、9月上旬から9月中旬にかけて天然親魚8.9トン安曇川人工河川、近隣の常水河川に放流し、ふ化仔魚38億2千万尾を琵琶湖に流下させ、アユ資源の増殖に努めた。

(4) 湖づくり活動支援事業

多様な琵琶湖の生態系を保全する活動を行う水産多面的機能発揮活動組織に対して、固有在来魚種で草食性の強いワタカの稚魚10万尾を供給した。併せて、放流効果を把握するため標識魚の追跡調査を実施した。

また、ゲンゴロウブナ資源を回復させるため、水産多面的機能発揮対策事業を行う活動組織に対して、放流種苗11万尾を供給した。併せて、放流効果を把握するため標識魚の追跡調査を実施した。

(5) 産卵繁殖場保全事業

県が琵琶湖内に設置した増殖場施設（21ヵ所）と南湖の砂地造成漁場（1ヵ所）の定期的な点検管理や雑木の伐採、支障物の撤去等により、機能維持および湖上事故防止に努めた。また、湖辺の産卵繁殖場や魚のゆりかご水田水域において親魚来遊や産卵の状況の把握調査を行った。さらに、水産試験場が実施する簡易堰上げ水路におけるニゴロブナの再生産回復調査研究への調査協力を行った。

(6) 水産加工業振興対策事業

水産加工業者の経営の安定化と水産加工業の発展に資するため、滋賀県水産加工業協同組合に資金の貸付けを行った。

(7) 情報提供事業

ホームページや「協会ニュース」の発行により、県民や漁業者への事業活動や経営内容についての情報提供に努めた。

正味財産増減計算書

自 令和 5 年 4 月 1 日
至 令和 6 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	48,400	48,400	—
特定資産運用益	2,783,481	2,988,267	△ 204,786
受取補助金等	79,387,200	77,772,200	1,615,000
受取負担金	3,000,000	3,000,000	—
寄付金収益	1,300,000	1,200,000	100,000
受取寄付金	23,600,000	24,000,000	△ 400,000
雑収益	3,596,945	4,586,353	△ 989,408
経常収益計	113,716,026	113,595,220	120,806
(2) 経常費用			
事業費	123,700,243	120,714,301	2,985,942
管理費	2,604,879	2,767,097	△ 162,218
経常費用計	126,305,122	123,481,398	2,823,724
(うち人件費)	40,139,129	44,809,350	△ 4,670,221
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 12,589,096	△ 9,886,178	△ 2,702,918
評価損益等計	—	—	—
当期経常増減額	△ 12,589,096	△ 9,886,178	△ 2,702,918
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	—	—	—
(2) 経常外費用			
経常外費用計	—	—	—
当期経常外増減額	—	—	—
当期一般正味財産増減額	△ 12,589,096	△ 9,886,178	△ 2,702,918
一般正味財産期首残高	74,892,178	84,778,356	△ 9,886,178
一般正味財産期末残高	62,303,082	74,892,178	△ 12,589,096
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	△ 23,600,000	△ 24,000,000	400,000
当期指定正味財産増減額	△ 23,600,000	△ 24,000,000	400,000
指定正味財産期首残高	978,720,879	1,002,720,879	△ 24,000,000
指定正味財産期末残高	955,120,879	978,720,879	△ 23,600,000
III 正味財産期末残高	1,017,423,961	1,053,613,057	△ 36,189,096

正味財産増減計算書内訳表

自 令和 5 年 4 月 1 日
至 令和 6 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内 部 取 引 消 去	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	24,200	—	24,200	—	48,400
特定資産運用益	202,802	—	2,580,679	—	2,783,481
受取補助金等	79,387,200	—	—	—	79,387,200
受取負担金	3,000,000	—	—	—	3,000,000
寄付金収益	1,300,000	—	—	—	1,300,000
受取寄付金	23,600,000	—	—	—	23,600,000
雑収益	3,596,945	—	—	—	3,596,945
経常収益計	111,111,147	—	2,604,879	—	113,716,026
(2) 経常費用					
事業費用	123,700,243	—	—	—	123,700,243
管理費用	—	—	2,604,879	—	2,604,879
経常費用計	123,700,243	—	2,604,879	—	126,305,122
(うち人件費)	38,433,223	—	1,705,906	—	40,139,129
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 12,589,096	—	—	—	△ 12,589,096
評価損益等計	—	—	—	—	—
当期経常増減額	△ 12,589,096	—	—	—	△ 12,589,096
2 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	—	—	—	—	—
(2) 経常外費用					
経常外費用計	—	—	—	—	—
当期経常外増減額	—	—	—	—	—
当期一般正味財産増減額	△ 12,589,096	—	—	—	△ 12,589,096
一般正味財産期首残高	74,892,178	—	—	—	74,892,178
一般正味財産期末残高	62,303,082	—	—	—	62,303,082
II 指定正味財産増減の部					
一般正味財産への振替額	△ 23,600,000	—	—	—	△ 23,600,000
当期指定正味財産増減額	△ 23,600,000	—	—	—	△ 23,600,000
指定正味財産期首残高	978,720,879	—	—	—	978,720,879
指定正味財産期末残高	955,120,879	—	—	—	955,120,879
III 正味財産期末残高	1,017,423,961	—	—	—	1,017,423,961

貸 借 対 照 表

令和 6 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現 金 預 金	1,486,654	2,059,986	△ 573,332
未 収 金	5,170,200	3,140,975	2,029,225
流 動 資 産 合 計	6,656,854	5,200,961	1,455,893
2 固 定 資 産			
(1) 基 本 財 産			
投 資 有 価 証 券	11,000,000	11,000,000	—
基 本 財 産 合 計	11,000,000	11,000,000	—
(2) 特 定 資 産			
温 水 魚 資 源 対 策 積 立 資 産	734,120,879	757,720,879	△ 23,600,000
水 産 加 工 業 振 興 対 策 積 立 資 産	200,000,000	200,000,000	—
鮎 資 源 対 策 積 立 資 産	10,000,000	10,000,000	—
退 職 給 付 引 当 資 産	19,134,620	18,126,560	1,008,060
特 定 資 産 合 計	963,255,499	985,847,439	△ 22,591,940
(3) そ の 他 固 定 資 産			
建 物	243,986,375	243,986,375	—
構 築 物	321,936,405	321,936,405	—
車 両 運 搬 具	2,919,624	2,919,624	—
什 器 備 品	106,396,323	106,396,323	—
船 舶	7,700,000	7,700,000	—
減 価 償 却 累 計 額	△ 621,375,861	△ 608,875,067	△ 12,500,794
電 話 加 入 権	257,227	257,227	—
そ の 他 固 定 資 産 合 計	61,820,093	74,320,887	△ 12,500,794
固 定 資 産 合 計	1,036,075,592	1,071,168,326	△ 35,092,734
資 産 合 計	1,042,732,446	1,076,369,287	△ 33,636,841
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
未 払 金	3,466,903	4,113,731	△ 646,828
預 り 金	541,731	515,939	25,792
賞 与 引 当 金	2,165,231	—	2,165,231
流 動 負 債 合 計	6,173,865	4,629,670	1,544,195
2 固 定 負 債			
退 職 給 付 引 当 金	19,134,620	18,126,560	1,008,060
固 定 負 債 合 計	19,134,620	18,126,560	1,008,060
負 債 合 計	25,308,485	22,756,230	2,552,255
III 正 味 財 産 の 部			
1 指 定 正 味 財 産			
出 捐 金	944,120,879	967,720,879	△ 23,600,000
寄 付 金	11,000,000	11,000,000	—
指 定 正 味 財 産 合 計	955,120,879	978,720,879	△ 23,600,000
(うち基本財産への充当額)	(11,000,000)	(11,000,000)	(—)
(うち特定資産への充当額)	(944,120,879)	(967,720,879)	(△ 23,600,000)
2 一 般 正 味 財 産	62,303,082	74,892,178	△ 12,589,096
正 味 財 産 合 計	1,017,423,961	1,053,613,057	△ 36,189,096
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	1,042,732,446	1,076,369,287	△ 33,636,841